

## 学校経営推進費 評価報告書（最終）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立夕陽丘高等学校 全日制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	<p>(1) アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>┆ グローバル人材育成に係る校内アンケート項目「課題研究に対する生徒の肯定的評価（80%以上）」「社会貢献活動に取り組む・将来国際的に活躍したいと考える生徒数倍増(H27: 235名)</li> <li>┆ 関西学院大学と連携し実施する「生徒変容アンケート」の【問題解決能力】【対課題基礎力】【対人基礎力】【對自己基礎力】の数値の経年変化から生徒の内面変化（グローバルな資質・能力及び感性の成熟度）を測る。</li> <li>┆ 海外大学への留学やグローバルに「使える」英語力として、生徒の80%にGTEC for STUDENTSで450（1年次）、475（2年次）を獲得させる。また、英検2級の合格率を35%にする。</li> </ul> <p>(2) アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>┆ 学校・地域の紹介文（日本語・英語）を「大阪文化発信マップ・夕陽丘」としてまとめ、国際交流テキストとして海外発信する。</li> <li>┆ 夕陽丘高校主催による成果発表会「ワールドフォーラム」を開催する。</li> </ul>
計画名	大阪・夕陽丘発 文化で世界を「デザイン」するリーダーの育成

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1-① 問題解決型学習に取り組む：総合と関連を図る。</p> <p>⑤ 大学進学や留学に必要な英語運用能力を身に付ける。：GTECスコア H30：500、英検（2級）合格率：受験者の35%</p> <p>3-⑫ 交流に必要な英語を含む語学力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外の学校の訪問や留学生を積極的に受け入れ、双方にとって有効な国際交流を展開する。</li> </ul> <p>⑬ 姉妹校：クラークスタウン高校（アメリカ・ニューヨーク）、鳳新高級中学（台湾）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。</li> </ul> <p>⑭ 生徒国際交流委員会の定期的開催、国際交流新聞の定期的発行等、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。</p>
事業目標	<p>これまで高校生の「世界進出」を阻んできたのは、英語力を含めた異文化コミュニケーション力や海外の知識や経験の不足であるという認識から、夕陽丘高校が持つ地域の文化的財産を「地の利」として、文化を切り口とした国内外のフィールドワークを実施する。これらを通して、生徒が自信をもって世界に飛び出すための「能力・感性」を身に付けるカリキュラム開発を行い、世界の若者に伍して活躍できる人材の育成を図る。</p> <p>◆ 授業の構造改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「総合」を抜本的に改革する。フィールドワークやアクションリサーチをふんだんに取り入れ問題解決型学習を進める。</li> <li>② 各教科にもアクティブラーニング、問題解決型学習を取り入れ、「総合」との関連を図る。</li> <li>③ 英語以外の教科等で英語による授業の回数、語学講座の実施回数を増やす。</li> </ul> <p>◆ 英語教育のイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① CAN-DO リストに基づく「夕陽丘メソッド」を開発する。</li> </ul>

	<p>② GTEC スコア H30 : 500、英検 (2 級) 合格率 : 受験者の 35%等、数値目標を一層明確にして取り組む。</p> <p>◆ 国際交流、キャリア教育の充実</p> <p>① 生徒国際交流委員会の定期的開催、国際交流新聞の定期的発行、国際交流活動を学校全体で計画的に行う。</p> <p>② 実際に海外の大学の授業を体験し、卒業後の進路として海外の大学を含めたキャリアデザインを行う。</p>
<p><b>整備した 設備・物品</b></p>	<p>iPad (30 台) Wi-Fi 環境設置工事 (全 HR 教室 24 室)</p>
<p><b>取組みの 主担・実施者</b></p>	<p>教諭 : 福本美紀</p>
<p><b>本年度の 取組内容</b></p>	<p>Ⅰ ワールドフォーラムの開催 7 月 19 日 (木) に、保護者や他校の教員などを招いて、これまでの総合的な学習の時間「夕陽学」や国際交流活動の総まとめとして、研究発表会を開催した。発表の際には、iPad のプレゼンテーションアプリを活用し、各グループの取組を紹介し、それを基にして、グループディスカッションを行った。</p> <p>Ⅰ 講演会の実施「国際人権講演会」「国際理解講演会」「英語アウトプット力強化講座」 グローバル市民としての基礎的な知識と考え方、コミュニケーションツールとしての英語力養成を目的として実施した。</p> <p>Ⅰ 夕陽学での取組 1 年生 : 学校・地域を知る 2 年生 : アジアを知る 3 年生 : 世界を知る をテーマに探究的な取組を実施した。</p> <p>Ⅰ ニューヨークフィールドワーク 姉妹校である、ニューヨークのクラークスタウン高校でのホームステイ、ボストンでの企業訪問や大学見学を行った。</p>
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<p>① 夕陽学アンケートにおける肯定回答率 80%以上</p> <p>② GTEC (6 月、12 月実施分) スコアの伸びを比較する。目標スコア (生徒 80% の平均 500/810) 61.7% がクリアできているか検証する。</p> <p>③ 英検 2 級合格者数を検証する i H29 年度 58 名。昨年度比 1.5 倍をめざす。</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p>① 夕陽学アンケートにおける肯定回答率 ..... (○) i 「夕陽学での取り組みは今後の大学生活や社会人生活に役立つと思う」 (84%) i 「夕陽学の授業を通して、新たな知識や考え方が身についたと思う」 (74%)</p> <p>Ⅰ 夕陽学での取組 △ 「情報を調べ、まとめて発表する」という一連の流れを確立することはできたが、そこから脱却して、「課題を見つけ、仮説を立て、検証する」という探究的な流れを浸透させることはできなかった。 ..... (△)</p> <p>② GTEC (6 月、12 月実施分) スコアの伸びの比較。 ..... (◎) i 1 年上位 8 割のスコア 805/1080 (74.5%)、2 年上位 8 割のスコア 820/1280 (64.1%)</p> <p>③ 英検 2 級合格率 (合格者数) ..... (○) i 2 級合格 85 名 (昨年度比 1.47 倍) 1.5 倍には届かなかったものの大幅に増えた。</p> <p>(その他) ワールドフォーラムの開催 ..... (◎) 当日は、生徒たちが司会、発表まですべて運営した。自分たちが調べたり、経験したことを、ほかの人に「伝える」ということを意識して、プレゼンを行い、また、その過程を通して、ものごとを俯瞰的に見られるようになった。</p> <p>(その他) 講演会の開催 ..... (○)</p>

	<p>それぞれの講演会において、外部との連携を図り、専門的な観点から「グローバル市民とは何か」に対する問いを生徒たちに考えさせる機会を与えることができた。</p> <p>(その他) ニューヨークフィールドワーク …………… (○)</p> <p>今回の研修は、英語でのコミュニケーション力養成だけでなく、キャリアデザインを意識して実施した。詳細はアンケートの結果を待たなければならないが、一定の満足度は得られたものと確信している。</p>
<p><b>事業のまとめ</b></p>	<p>本事業をきっかけとして、本校がこれまで取り組んできた「国際交流活動」と総合的な学習の時間「夕陽学」をまとめて、YGR(Yuhigaoka Global Revolution) 活動を始めることができた。YGR 活動全体を通じて、グローバル市民育成という目標を達成するために、チーム夕陽として取り組んできた。英語科では、総合的なコミュニケーション力養成のために、インプット→アウトプットという流れを意識した授業形態を確立させ、GTEC や英検等の外部試験においても、スコアアップや合格者数増という結果を残している。</p> <p>また、夕陽学を始めてから3年生が経ち、教員にも生徒にも「夕陽学」の目標、概念が浸透してきた。「聞き手」を意識したプレゼンに関しては、一定の成果を見ている。ただ、「調べ学習」の域を超えていない部分があることも否めない。新1年生からは、3年間を見通した授業計画を立て、系統立てた探求的な学習に取り組む予定である。</p> <p>さらに、来年度以降、カリキュラムマネジメントの基軸にSDGsを取り入れ、教科横断的な取組をさらに広げ、YGR 活動も強化していこうと考えている。</p>